令和7年度長野県森林審議会保全部会 議事録

- 1 日 時 令和7年4月22日（火）午後1時15分から午後4時まで
- 2 場 所 佐久市望月支所大会議室 佐久市望月 263
（佐久市協和字藤ノ木 3491 番地ほか5筆の現地調査を含む）
- 3 出席委員 富樫均（部会長）、植木達人、佐藤京子 計3名
- 4 事務局、説明者等
 - （1）林務部 森林づくり推進課 塚平賢治、植木信吉、岡村晃介
 - （2）佐久地域振興局 林務課 瀬畑雅臣、畠中陽一
 - （3）事業者（有限会社田村砕石商会、株式会社協和コンサルタンツ）
- 5 審議に付した事項
10ヘクタールを超える林地開発行為（土石の採取）について
- 6 議事録署名人
植木委員、佐藤委員

7 議事

- （1）林地開発計画概要の説明・・事務局及び事業者から提出した資料により説明
- （2）質問・意見

〈富樫部会長〉

説明の中で、訂正箇所や、同意が得られる見込みだけでもまだ得られてないというところがあったが、これについては、大丈夫か。

〈事務局〉

訂正箇所については、降雨量について30年確率で計算していたものを50年確率に見直したもので、再計算の結果問題ありませんでした。

同意につきましては、佐久市の赤線の払い下げ申請が出ておりますが、その同意がまだ出てないということでございます。

私達許可者としましては全ての者からの同意を得た段階での許可という形を考えておりますのでその点は大丈夫かと思えます。

〈富樫部会長〉

万が一そこで問題が生じた場合は、例えばこの部会で決定しても、許可されないということよろしいですか。

〈事務局〉

審議会から答申をいただいた後に、最終的に同意が得られたことを確認し許可することとなりますので、問題ないと考えております。

〈富樫部会長〉

分かりました。

〈植木委員〉

資料1の「5 許可基準の対応状況」の「(4) 環境の保全」に、「エ 残置森林の維持管理方法」というのがあって、佐久市と協定を締結する予定ということですが、これについてはどういう内容で結ぶのかということと、これはそもそも結ぶ必要があるのかどうか。

〈事務局〉

協定については配布（追加配布）させていただきました内容で予定されており、残地森林を今後どう維持管理していくかといった内容となっております必要と考えております。

〈植木委員〉

「林地開発変更許可申請書 審査調書」の2ページ目にある、「開発行為に対する関係者の意見」で市町村長の意見が「異議なし」となっていたところを、現在照会中でまだ回答がないため、現時点では空欄に修正との説明をうけたのですが、これも早急に確認していただくこととなりますね。

〈事務局〉

確認します。

〈植木委員〉

次の審査結果のところですが、「一般的事項」の下から三つ目、「周辺地域の産業活動（特に森林施業）及び住民生活への配慮」というところに何もマークがないんですが、これはどういうことを意味するのでしょうか。

〈事務局〉

これについては記載が漏れておりました。

地元区長さんのお話も聞けましたし、会社が交通安全もやっているということ、それと林業という形では先日、森林組合ともお話をさせていただいた中でこの部分には林業という生業の山ではないという形になりましたので、適という形で判断させていただければと思います。

〈植木委員〉

関連するところで、先ほどの協定の話ですが、この残置森林については維持管理計画書を作らなければならないってことで、これは乙ですから事業者が作って提案しなければいけないってことですね。

〈事務局〉

そのとおりです。

〈植木委員〉

それはもうできているという事でよろしいですか。

〈事務局〉

開発完了後に作成という形になっています。

〈事業者〉

開発行為の完了時に残地について維持管理計画書を作成してということになっていまして、今回の場合、開発行為が完了するのはあと 15 年後ぐらいなんでそれまでには計画書を策定して佐久市さんにとっていうことになると思います。

〈植木委員〉

ずいぶん先の話になるんですね。

〈事業者〉

はい。忘れないでやるようにと言う覚書だと考えております。

〈事務局〉

それにつきまして別件でございますが、他の市町村でこの跡地の計画について、市町村と事業者の会議に、別件でございますがこの間ちょっとそこにオブザーバーとして参加した経過がございまして、市町村で森林整備計画書を作成しておりますが、それに基づいて作っていかうという形で考えておりますので市町村森林整備計画に合った内容になろうかと思えます。

保育の内容ですとか、植栽の内容といったものが含まれるだろうと思えます。

〈富樫部会長〉

完了後の話ということであれば、資料の中に佐久市と協定のところを「予定」だけでなく、「完了後に予定」といった書き方をお願いします。

〈佐藤委員〉

今回の場所ではないですけども林地開発を行っている場所で県道等からの景観が大変気になるような場所もありますので、特に残置森林の関係では定期的に確認等を行って補植など行うとかそういうところを配慮していただければなと思っております。

あとは自然災害だとか労働災害に注意をして作業を行っていただきたいと思えます。

〈事務局〉

今回の現場でいえばですが、資料 1 の 4 枚目になりますが、かっこ 4 の「環境の保全」の下の方にございます「景観への配慮について」としまして、「また、採石場に近接する県道からの景観に配慮し、県道と採取場所間の森林は残し、県道からの見えに配慮をしている」という形で、今回は対応させていただいております。

また、他の林地開発につきましても今後、定期的に見守るなどという形で対応できればと考えております。

〈富樫部会長〉

佐藤委員からの質問は、その残置森林がしっかりと保全されているかということについて、定期的な確認など、そういうことをしてほしいということのご意見だったと思うのですが、それについてはいかがですか。

〈事務局〉

各残置森林について全て定期的に見回る、残置森林の中まで入って調査するっていうのはちょっとなかなか難しいところはあるかとは思いますが、普段そういった開発の確認とかの中でそういったところについてはちょっと注意していく、させていただくような形になるかと思えます。

〈富樫部会長〉

決まりとして確認する予定があらかじめ組んであるわけではないということですね。

〈事務局〉

対応としましては先ほど以来ご説明のあった市町村の協定という部分の話と、我々地域森林計画樹立するために5年に一度航空写真を撮りましてそれをオルソ化してですね5年前と比較し森林の状態の変化を調べております。

当然開発行為周辺の森林のですね、違法な伐採等がないかあるかといったところは確認してまいりますので、そういった点からも確認はできるかと思っています。

〈植木委員〉

事業者より提出のあった資料の7ページに「採掘規格および緑化」というのがあって、これは基本的に災害防止であったり緑化をしていくのだということが前提ですよということで作られているのですが、これアカマツを段の平な部分に2,500本ですか、植えるとのことなんですが、現場で話したんですが、どうなんですかね、可能性をちょっとお聞きしたいんですが

〈事業者〉

アカマツで対応していきたいと思うんですけど、もし成長とか見て、植栽できない場合等あればまた他の、その地域に合ったもので植栽をできればとは考えております。

〈植木委員〉

客土するので、多分やっぱアカマツだと思うんですけどね。ここは。

その他の樹種はあんまり考えにくいんですけど、ただ、これ無理なことをやれとなんか言ってるような気がしてならないんですよ。

岩盤の上に緑化するって時間をかければ別ですけど、これをいつまでやるだとかまで載っていませんが、やはり現場でいろいろと見てもこういうところを緑化すると大変難しいわけですよ。

それをしなきゃいけないんだというですね、なんか無理難題を言ってやらせるというのも本当どうなの

かなと私は思っています。

もしうまくいかなかったりした場合は、これは県としてはどうするんですかねこれはそこをちょっと確認したいんですけど。

それがもし無理であれば基本的にこれはやっぱり災害防止だとか、そういったところの観点で緑化しなさいということなのでそれが無理であれば県としてはどのように対応するのかということをお聞きしたいんですけど。

多分今は獣害の話も出ましたしね、いろんな形でやっぱりなかなか難しいこともあるだろうし、これまでの他の地域の経験もどうなのか私もちょっと存じ上げてないので何とも言えないんですけど、その辺どうなんですかね成功する可能性だとか無理であればどうしてどうするのかっていうことについては。

〈事務局〉

開発終わって完了確認の際には、活着率とか確認させていただいて、悪いようであればさらに客土をしてとかっていうようなご相談をさせてもらうような形にはなります。

ただ、それ以降となるとちょっとなかなか機会っていうのが減ってくるのかなっていうふうなところになります。

完了の時点では、もう一度様子を見ながら、事業者と相談させていただきたい。

また、森林計画関係で5年に1回地域森林計画を作るために空から航空写真を撮っております

その場所の拡大具合とか枯れ具合なども対比して5年後の状況ということで緑化が進んでるかどうかっていうところは地域森林計画の中に市後も入ってきますので、そういった観点で定期的な森林の状況はどうかっていうのは森林計画的には思っているところがございますのでちょっとご報告させていただきます。

〈富樫部会長〉

計画だけで実際が伴わないと非常に困ったことになりますのでその辺はぜひ気をつけてお願いしたいと思います。

私から細かいところもありますけれども確認させていただきたいのが、この資料の2枚目の裏ですね、2枚目の裏の「文化財及び貴重な動植物の有無」というので貴重な動植物なしと書いてありますが、これは何をもってなしというふうにその根拠というのはどういうことなんでしょうか。

〈事務局〉

申請者の方で現地を歩いてっていう形で確認をしております。

〈富樫部会長〉

それって本当に申請者がいないと言って、それだけでないということでもいいのかというところがありますが、いかがですか。

〈事務局〉

文化財ですとか動植物の関係のものでございますが、多くは市町村の管理のところでも多く担当しております。

今、佐久市の方へ意見照会をさせていただいておりますが、前回までも佐久市の中で林務ばかりじゃなくて、環境・建設、その他の関係部署の方へ意見照会をしたものを取りまとめてくださるという形でございまして、前回までの意見書の中にはそういった記載はなかったものです。

〈富樫部会長〉

記載がないからないとは言えなくてですね、それは例えば市町村に照会するのであれば、市町村の方で希少種と思われるものは確認されていないとか、そういう結果として確認し、記載していただかないと、今のお話で貴重な動植物なしという断定してしまうというのはまずいんじゃないかなというふうに思うんですが

今後その結果が出てくるということですね。

〈事務局〉

現在、佐久市の方へ意見照会をしている途中でございますので、今回どのような回答が来るかわかりませんが、そんな感じもそうなります。

〈富樫部会長〉

こういうふうに項目として挙げてあるのであれば、これについて市町村に照会するという形で回答をもらうようにぜひお願いしたいと思います。

〈事務局〉

わかりました。

〈富樫部会長〉

それから資料1の3枚目の裏になりますけれど、下の方に「流出土砂」というのがあって、「沈砂池諸元」で「必要設計堆砂容量」と「計画設計堆砂容量」、これイコールになってますけれどもこれはイコールで構わないのでしょうか。

〈事務局〉

現場の方の真ん中にございました大きな調整池でございますが、計算式としましては1年間に森林から1 m³/ha、裸地では300 m³/ha 出るという計算をかけたのものでございまして、計算数値としましては1,185 m³、沈砂池調整池の容量自体は上の段のトータルで84,330 m³というものがございまして、最大入ってくる量であろうという数字が、設計値として、併記しているものでございます。

〈植木委員〉

というと84,330 m³は。

〈事務局〉

調整池自体は、入ってくる土砂も、雨水も含み、それで合わせて8万4千という数字になっておりまして、その内の数値という意味合いで1,185を出しております。

〈富樫部会長〉

それは考え方としておかしくて、必要設計堆砂容量に対して安全を見込んで設計しないとまずいわけですね。

表現の問題かもしれませんが予想したよりも何らかの原因でたくさん来た場合にこれでは受け止められませんという、そういう設計になってしまうと思います。そういうふうに誤解を受けないためにもですね、やっぱり記載の仕方がおかしいと思いますけど。

〈事務局〉

資料1の方での見方というのも変なんですけど、調整池自体の容量は84,330でございます。

洪水として出てくる可能性のあるのが21,800 m³でございます。

それと下の沈砂池の1,185 m³と21,800 m³が合わさったのが最大値の計算でございます、それ以上の84,330ということですので安全率という形は見てなかったんですけど。

〈植木委員〉

計画設計堆砂容量というのは、1,185ではなく、21,800と1,185の計が最大限の量という解釈でよろしいですか

〈事務局〉

はい

一番満杯になるのが8万4000までになりますので、その差分が土砂としてたまって大丈夫という数字になります。

〈富樫部会長〉

そうですねそこは説明を聞かないとわからないところですので訂正していただければというふうに思います。

それと関連しますけど、資料1の最後の1枚の表側の一番下の「排水施設」で排水設計計画流量というのが書いてありますけれども現場では、計画地から外に排水する予定はないというようなふうに私は聞きましたけれども、ここに書いてあるのはどういうことかなというところですけど。

〈事務局〉

沈砂池が小さいのがございますが、そこへ導水するための水路が土側溝になっておりましてこの断面の計算になります。

外への排出ではないです。

〈富樫部会長〉

でも排水施設と書いてあると何か事業区域から外への排水施設というふうに読んでしまうんですけどそういうわけではないということですか。

事業区域内の排水ということですか。

〈事務局〉

事業区域内になります。

〈富樫部会長〉

そこはそのようにわかるように

〈事務局〉

記載の方法をちょっと、もうちょっと丁寧に追記いたします。

(3) 議案の決定

異議なし

ただし、修正した資料について委員に確認させること。

令和7年7月10日

議事録署名人 植木 達人 印

議事録署名人 佐藤 京子 印